

2nd Asia-Pacific Conference on Performance Analysis of Sport における研究発表

岡村 修平*

はじめに

今回、国際重点プロジェクト経費により 2nd Asia-Pacific Conference on Performance Analysis of Sport (以下、APCPAS 2017) における研究発表の機会をいただいたので、ここに報告する。

APCPAS について

2017年10月16～18日の日程で、マレーシア・クダ州ランカウイ島の Holliday Villa Langkawi ホテルにて行われた APCPAS 2017 に今回初めて参加した。同学会に参加したことにより、世界の Performance Analysis の最先端の研究を行っているニック・ジェームズ教授をはじめ、世界で活躍する様々な研究者と交流を深めることができ、かつ研究に関するアイデアをいただいたことで、自身の研究を進める大きなきっかけとなった。筆者が進めるゲーム分析の研究分野においては、本学会は最も重要な学会の一つであり、本学会に参加することによりゲーム分析に関する研究の現状を把握できるとともに、世界のゲーム分析研究者とのネットワークを密にすることが可能となる。



APCPAS 会場の前にて

研究発表について

Relationship between racket swing and ball movement in tennis forehand stroke (岡村)

研究発表の内容は、トラックマン・テニス・レーダーと mac3D-system を用いて、テニスのフォアハンドストロークのスイングとボールの速度及び回転数の関係を明らかにしたものである。研究題目は「Relationship Between Racket Swing and Ball Movement in Tennis Forehand Stroke」であった。

同発表は、学会 2 日目午後のオーラルセッションで行われた。2 日目はオーラルセッションの最終日で、尚且つ最終発表であったため、日程的に参加者も少なくなってしまうことを危惧していたが、興味を持つ聴講者に参加いただき、幾つかの質問も受け、セッション終了後にも有意義な意見交換ができた。

発表後の質疑応答では、トラックマン・テニス・レーダーに関する質問を受けた。今回の発表では、スイングの傾きやスイングの速度を算出していたが、それらはトラックマン・テニス・レーダーで測定可能か、という質問であった。トラックマン・テニス・レーダーは打ち出されたボールの速度や回転数、回転軸、軌道を測定するもので、ラケットのスイングに関しては、mac3D-system を用いて、算出したという旨の返答を行った。

また、オーラルセッション終了後に、ラケットのみではなく、体にも反射マーカ―を装着してみてもという意見を頂いた。確かに体にも装着した方が、より深くスイングの特徴を明らかにできるので、今後研究を進めていく上で大変貴重な意見を頂くことができた。

* 鹿屋体育大学大学院体育学研究科修士課程 1 年



発表の様子（岡村）

マラヤ大学施設見学について

鹿屋体育大学で行われた NIFISA 及び 1st International Conference of NIFS International Sport Academy にて講義をされた Khoo 教授の御厚意で、2017年10月19日にマレーシアにおいてスポーツの最先端の研究を行っているマラヤ大学のスポーツセンターの施設見学をさせて頂いた。施設見学当日は、Khoo 教授にご予定が入っていたため、バイオメカニクスの専門である Rizal 教授がスポーツセンターの施設案内をしてくださった。マラヤ大学にはバドミントンのオリンピック選手が多くいることから、特にバドミントンの研究が行われていた。その中でもバイオメカニクス分野での分析やスポーツビジョンの研究等を紹介して頂いたが、同じラケットスポーツということもあり、今後私のテニス分野にも活かせるような研究が多く見られた。今回の施設見学は、今後研究を行う上で大変貴重な機会となった。



バイオメカニクス実験室にて



マラヤ大学のスポーツビジョン研究室にて

終わりに

本学会では、名古屋大学の佐々木康教授が来賓演説者として参加されていた。その関係もあってか、2019年の9月に本学会が名古屋大学で開催されることとなった。また新たな情報収集のために、同カンファレンスへの参加を計画している。

2年おきに開催される本学会であるが、ゲーム分析の研究をさらに進展させ、2年後の名古屋での学会にも参加できるよう、今後も研究を進めていきたい。

最後に、今回このような機会を与えてくださった松下学長、その他関係者各位に厚く御礼を申し上げます。